ヒムロ

按檉樹似檜柏而高者三四丈、葉甚細密、軟刺經數歲者結子、碧色微如麥門冬子、

〔本草一家言 三〕檉　王旨堂準繩幼科、有檉柳湯、治麻疹、用檉葉、其效驗不勝枚擧、醫家不可不知也、諸家解檉、殊致淆亂、不可不辨也、爾雅檉河柳、郭璞遂誤注、以爲河旁赤莖小楊者非也、檉一名西河柳、西河都名、樹葉似樅及榧而極細、面青背白、羅願云、天之將雨、檉先知之起氣以應、又負霜雪不凋、乃木之聖者也、又名雨師及三輔、故事云、漢武帝、苑中一日三起三眠、俗稱長壽仙人、柳亦曰觀音柳者卽此也、今洛北天台山文珠樓前有一株、土人呼榆樅、又野州日光山中多生、因名日光樅、雖有柳名、然實非柳屬、蓋以有柳名、郭璞以爲赤莖小楊、詩家相承以三起三眠爲柳事實、而使皆轉々相誤、不致用心之過也、不可不辨、又府志云、檉膠名胡桐淚、此亦藥家須用之物、豈可不知乎、如圭

〔玉勝間 三〕むろの木

田中ノ道まろがいへりしは、萬葉の歌によみたる室の木といふものは、今もいづこにも多くある物也、美濃の不破郡、多藝郡などにて、ひむろとも、ひもろ杉ともいひ、伊勢の員辨郡、桑名郡のあたりにて、たちむろはひむろといひ、尾張の羽栗郡にて、ねずむろとも、べぼの木とも、むろともいへり、すべて山におほき木にて、地にはふと、高くたつと、二くさ有て、はふ方には大木はなきを、立るかたには大なるもの多し、柏子（ビヤクシン）といふ木に似て、又杉にも似たり、二種ともに、實おほくなるなりといへりき、

〔書言字考節用集 六生植〕檜柏（ヒムロ）本草、松檜相半者、　檜檉（同）和俗所用

〔增訂豆州志稿 七土產〕杜松（ムロスギ）　州人ヒムロト云、木質堅牢柵、及杙ト爲シテ朽チズ、其實藥ト爲ス、一種地ニ著テ蔓延スル者アリ、方言ハヒスギ、山南山野ニ多シ亦藥ニ用ウ、

〔草木育種後編 下藥品〕杜松（ねづみざし）南產志　諸州海邊に生ず、實を採り用ゆべし、一種喬木となるものあり、二月枝を扦してよし、漢名□杉といふ、俗にぼろすゝぎといふ、園に栽て實と材とを藥用とす